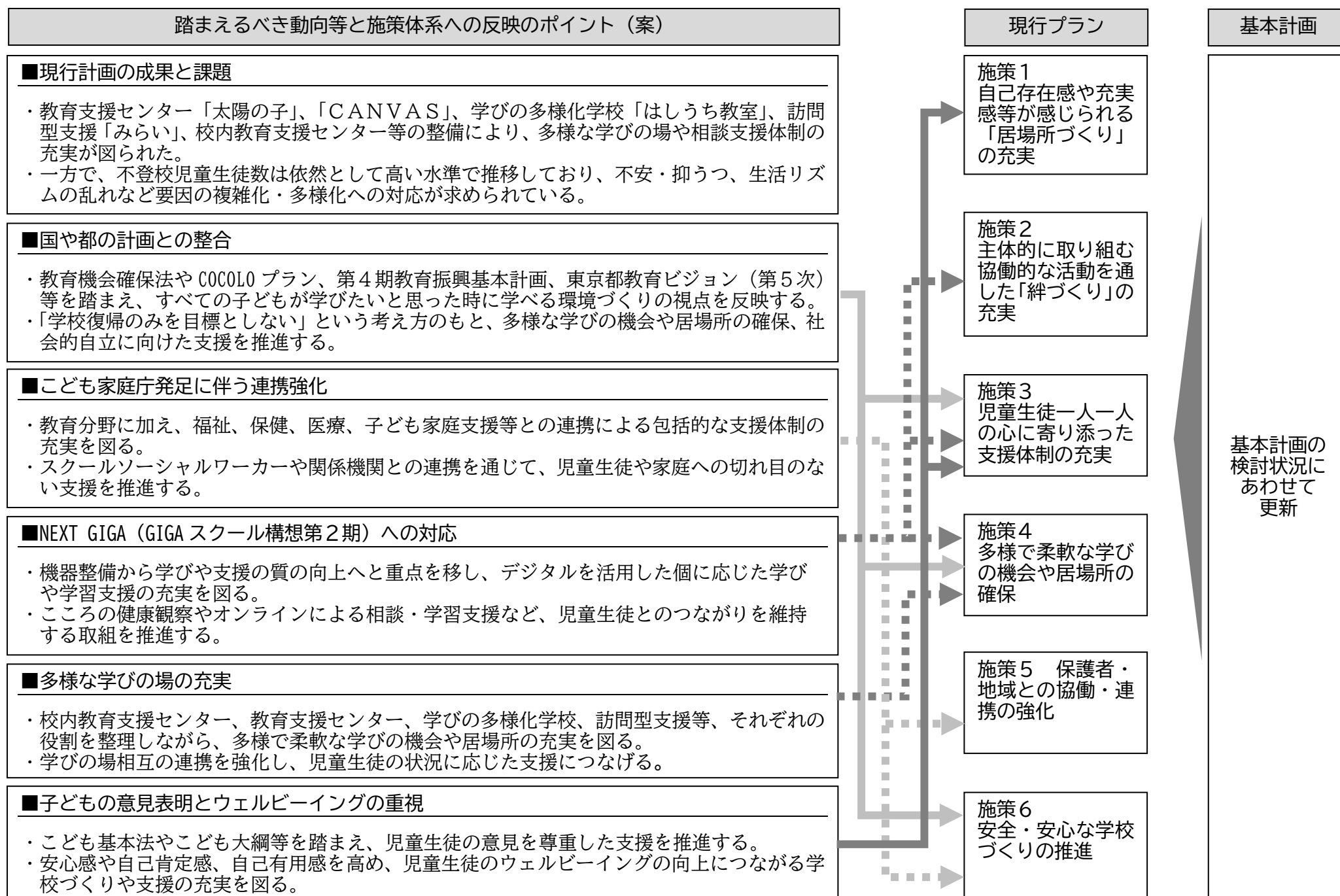


次期調布市不登校児童生徒への支援プラン 施策体系の検討（案）



第1回検討委員会後のまとめ

施策	第1回委員会での主な意見	次期プランで重視する視点（市の整理）	対応案・体系見直しの考え方
施策1	学校で主体的に学びを選択できることや、子ども同士で学び合う雰囲気为学校の楽しさにつながっている。個に応じた学習過程の充実や体験的な学びも重要。	「未然防止を意識した学校づくり」として、授業改善、学級経営、道德教育、教職員理解等を <u>施策1に位置付ける。</u>	<u>施策名の見直しを検討。</u> 「居場所づくり」だけでは、市が新たに重視する授業改善・学級経営等を包含していることが伝わりにくい。「安心して学び、過ごせる学校づくり」など、未然防止の趣旨が分かる表現も候補。
施策2	子ども同士の声掛けによって登校できる場合があり、「絆づくり」の力は大きいとの評価。心を育てることや教員の学級経営力も重要。	未然防止については施策1を中心に強化。	<u>基本的に現名称を維持。</u> 委員からも「絆づくり」の意義が肯定されている。学級経営や教職員研修との役割分担を整理する。
施策3	「休むこと」の重要性、本人の実感に近い声を拾うこと、安心して居てよいと思えることが重要。早い段階で本人の声を拾う必要がある。	「本人の状態・意思を踏まえた支援」を最重点。 学校復帰を目的化しない、子どもの声、自己選択・自己決定、休養、「学びに向かう状態」の把握を位置付ける。さらに「早期伴走支援」を盛り込む。	<u>施策名の見直しを検討。</u> 「心に寄り添う」から一歩進め、例えば「児童生徒一人一人の <u>意思と状態に寄り添った支援の充実</u> 」とすれば、今回の最重点事項を明確にできる。個別指導計画やアセスメントも本施策へ。
施策4	学校外の図書館・児童館等も居場所として活用すること、休むことや学校以外の場所を肯定し、本人が選択できること、一人一人に合った場を用意することが重要。	校内別室、教育支援センター、学びの多様化学校、訪問型、オンライン、学校外の居場所等を体系的に整理。複数の役割を持つ取組は「再掲」を活用する。	今回の委員意見・市の整理を十分包含できる。取組レベルで学校外の居場所、オンライン等を充実し、必要に応じて再掲する。
施策5	親の会等の保護者支援は地域で受け止めることも重要。学校外での体験・交流、図書館・児童館、地域ボランティア等が社会とのつながりや自立につながる。	図書館・児童館・ボランティア活動等を「社会との接点」として位置付ける。保護者相談、交流、情報提供、子ども向け情報発信を明記し、「伴走支援」を明確化。	<u>施策名の見直しを検討。</u> 「保護者」と「地域」という二つの柱は維持しつつ、地域を単なる協力主体ではなく、子どもが社会とつながる場として明確にする。
施策6	スクールソーシャルワーカーによる家庭と医療の接続、医療との連携が重要。支援時の配慮を進学先・社会へ引き継ぐことや、中学生段階から社会参加につなげることが必要。	医療・福祉との連携、スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラーから関係機関への接続を強化。高校等への進学、高校卒業後、社会参加までを見据えた支援を整理。「多様な学びを支えるネットワーク」も強化。	<u>施策名の微修正を検討。</u> 「関係機関との連携による切れ目のない支援の充実」とすると、医療・福祉との連携から義務教育終了後までを一つの考え方で包含できる。

「調布市不登校児童生徒への支援プラン ～誰かとつながる、どこかでつながる、いつでもつながる多様な学びの機会の充実を目指して～」 概要

理念	基本方針	施策	主な取組
どの子どもも、安心して教育を受けることができるようになります 多くの子どもも、学びたいと思ったときに学べる環境を整えます 多くの大人が関わって、子どもたちの社会的な自立を支えます	基本方針 1 魅力ある学校づくりを推進します (未然防止)	【施策】 1 安心して学び、過ごせる学校づくりの推進	1 児童生徒一人一人が安心して参加し、学ぶ楽しさを実感できる授業の充実 2 児童生徒一人一人の個性や能力を伸ばす教育活動の充実 3 障害や国籍、言語等の多様性を尊重し、一人一人の個性や考えを認め合う意識の醸成 4 児童生徒のウェルビーイングの向上を目指した安心して学べる学校風土の醸成
	基本方針 2 個に応じたきめ細かな支援を行います (早期把握・個に応じた支援)	【施策】 2 子どもの主体性とながりを育む「絆づくり」の充実	5 児童生徒一人一人の多様な学びの機会の充実 6 児童生徒が主体的に考え、取り組むことができる体験活動の充実 7 互いを理解し、安心して関わることのできる人間関係づくりの充実 8 不登校の未然防止に向けた教職員の理解・専門性の向上 ★
	基本方針 2 個に応じたきめ細かな支援を行います (早期把握・個に応じた支援)	【施策】 3 子どもの意思と状態に寄り添った早期支援の充実	9 児童生徒の声を聴き、支援に生かす取組の充実 10 児童生徒の心身の状況の把握と早期支援の充実 11 一人一人の状態に応じた学びへの伴走支援の充実 ★ 12 一人一人の意思や状態を踏まえた個別の指導計画の作成・活用 ★ 13 「チーム学校」による組織的な支援体制の充実 14 校内教育支援センター（校内別室）の機能充実による支援体制の強化
	基本方針 2 個に応じたきめ細かな支援を行います (早期把握・個に応じた支援)	【施策】 4 多様で柔軟な学びの機会や居場所の確保と学びの保障	15 学びの多様化学校分教室 「第七中学校はしうち教室」の指導の充実と発展 16 教育支援センター「太陽の子」「CANVAS」における支援の充実 17 訪問型支援「みらい」における支援の充実 18 不登校児童生徒支援プロジェクト「SWITCH」の充実 19 チャレンジクラス（不登校対応校内分教室）の設置に向けた検討 ★ 20 【再掲】校内教育支援センター（校内別室）の機能充実による支援体制の強化 ★
	基本方針 3 社会的自立に向けた支援を推進します (社会につながる支援)	【施策】 5 保護者への支援と地域とのつながりの充実	21 不登校や登校渋り等の児童生徒・保護者への相談体制の充実 22 コミュニティ・スクールの仕組みを活用した学校と保護者・地域との連携強化 23 進路相談、進路説明会、学校に行きづらい子どもの保護者の集い等の充実 24 児童生徒・保護者への多様な学びや支援に関する情報提供の充実 ★ 25 地域における多様な体験や人とのつながりの充実 ★
	基本方針 3 社会的自立に向けた支援を推進します (社会につながる支援)	【施策】 6 関係機関との連携による切れ目のない支援の充実	26 教育支援会議の充実による関係機関の情報共有及び連携強化 27 スクールソーシャルワーカーの全校配置による直接支援の充実 28 「不登校に係る支援委員会」の充実による学校の支援力・連携力の向上 29 保健・福祉・医療等の支援機関や民間施設との連携強化 30 卒業後を見据えた「調布子ども・若者支援地域ネットワーク」との連携強化 31 「不登校施策に係る検討委員会」の継続的な開催

★印については新規の取組